特別寄稿

リーダーシップ授業の広がり

経営学部特任准教授　稲垣 憲治

1．リーダーシップ授業を全学生へ！

「立教大学の学生全員が受けたいっていう授業にしたいですね！」

2013 年に全学共通カリキュラム（以下全カリと表記）でグローバル・リーダーシップ・プログラム（以下 GLP と表記）を立ち上げる際に教員陣で言っていたことである。

GLP は、元々経営学部で行われているビジネス・リーダーシップ・プログラム（以下 BLP と表記）を全カリでも行おうということからスタートした。

学生たちが社会に出て活躍していくためには、リーダーシップ教育は必須であると、我々は考えていたからだ。だったら、経営学部の学生たちだけでなく、全立教生に向けて授業を行いたい。その考えは 8 年経った今も変わらない。

それに、全カリで行えば多様な学部と学年をごちゃ混ぜにした、より多様性に富んだ環境の中で学生にリーダーシップ教育を提供できる。これは学生にとって大きなメリットとなるだろうと考えていた。

さらに、せっかくだから、経営学部で行っている授業とは違う切り口から取り組むこともやってみたいと考えていた。

2．プログラムの構成

GLP は 8 つのプログラム群でできている。詳しくは立教大学の Web（https://www.rikkyo.ac.jp/education/glp.html）をご覧いただくとして、ここではざっくり述べよう。

まず一つ目は入門プログラム。

企業から渡されるプロジェクト課題にチームで解決すべく取り組み、その過程で自分が発揮できた、もしくはできなかったリーダーシップを認識するもの。日本語版が GL101、英語版が GL111。

GL101 は GLP の中で一番受講者数が多いプログラムである。2020 年度は 324 人が受講している。

次に、他者の力を引き出すための質問力を学ぶもの。アクションラーニングやコーチングを学ぶことで、自分のリーダーシップスキルの幅を広げることができる。日本語版が GL201、英語版が GL202。

先ほどの GL101 と GL201 は、GLP が開講された 2013 年から続いているプログラ

ムである。

その後、徐々にプログラムを増やしてきた。

効果的なリーダーシップを発揮するために自己理解・他者理解を深く学ぶもの (GL103) や、他者のリーダーシップを開発するための方法論を学ぶもの (GL102)。これらは日本語で行われている。

さらに、他流試合のように、海外インターンに参加して、リーダーシップの実力を認識するもの (GL301) などもある。

英語で行われる授業、GL111 や GL202 では留学生も参加できるようになっているので、さらに多様性に富んだ環境で学ぶことができる。

このように、GLP では、受講生のさまざまなニーズに合わせて、リーダーシップのさまざまな側面を学ぶことができるようになっている。

3. 8 年間の変化

立ち上げ当初、GLP の入門科目 GL101 は 4 クラス 80 名定員でスタートした。

教員陣も経営学部の教員 3 名と、新たにグローバル教育センター付の教員 1 名の合計 4 名という形だった。

GLP は初年度から毎回受講希望者の数は定員の 2 倍程度存在している。初年度の受講生になぜ受講希望したのかを聞いたところ、大半の答えは、「経営学部の BLP のような授業が受けたかった」「経営学部の友人が羨ましかった」といったようなものだった。経営学部が先行してリーダーシップ授業を行っていたからだった。

2 年目以降はそれに加えて「GLP を受講した友人に勧められた」「すっごく楽しかったと聞いた」「学びが深いと聞いた」といったような声が加わっている。さらに、「説明会でプレゼンテーションをしてくれた方がカッコ良かった」「自分もあんな風になりたい」という声もある。そんな受講したい学生たちの意欲に応えるべく、毎年のようにクラス数を増やしてきたが、いつまで経っても希望者全員を受け入れることには追いつかない状態が続いている。

そのため、毎年受講希望者のすべての志望理由書を読み、受講者を選別している。大変な作業だが、全員を受け入れられない以上、より意欲のある学生に学んでほしいと考えているので仕方がないと思っている。

また、2015 年ごろから立教池袋高校・立教新座高校の 3 年生が特別聴講生制度を利用して GL101 を受講できるようにした。これも多様性の確保に一役買っている。

さて、2013 年のスタート時点から 7 年、2020 年春 GL101 は 15 クラス 300 名定員と成長した。当初と比べると約 4 倍の規模になった。

高校生は定員に加えて 24 名受け入れた。

ちなみに、受講希望者は約 1,000 名と、定員の 300 名の 3 倍を超えている。全部で 3,000 科目を超える全学共通科目のカリキュラムの中の 1 つの授業としてはかなり

良いところまで来たのではないだろうか。とはいえ、立ち上げ当初の「全員が受けたい」という状態にはまだ到達はしていないのだが。

さて、15 クラスを同じタイミングで行うためには、教員と学生アシスタント（以下 SA と表記）の確保が必須である。

SA は前年またはそれ以前に GL101 または BLP を受講した学生に募集をかけ、応募してきた学生から選抜している。いわば先輩学生が SA を行う。その姿を受講生は目の当たりにし、憧れの念を持つものが多い。そのため、毎年行われる SA の募集には多くの学生が手を挙げてくるのである。その中から、やる気があり、適性があり、教員・SA チームへの貢献力が高い学生が選ばれる。

教員は学内の教員だけでは追いつかないので、学外の社会人の方で、大学教育に興味を持たれていて、この方なら！と思う方にアプローチしてお願いしている。ただ、企業で働く方や、フリーランサーの方々なので、毎年お願いできるとは限らず、教員の確保は毎年大変だったが、最近はやっとある程度の人員のプールができた感はある。これら多様な教員・SA も GLP の成長に一役買っている。

毎回授業後に行われる教員・SA ミーティングは企業からの見学者の方々から「生産的で前向きで、かつクリエイティブですね」とよく言われる。

関係者全員が授業を、プログラムをより良くしようという気迫が伝わるのだろう。

4. SA の活躍の場

GLP では、SA は非常に大切な役割を担っている。

他の全カリの授業で SA の役割というのはプリントを配ったり、リアクションペーパーを回収したりといったことが中心と聞いているが、GLP の SA がやっていることはまるで違う。

まず、授業のファシリテーションが挙げられる。つまり、教壇に立って、授業を進めていくのである。じゃあ、教員は何をやっているかというと SA に求められた際に専門的な知識のレクチャーを行うことと、SA へのフィードバックを中心とした指導である。

また先ほども述べたが、GL101 や GL111 のような複数クラスで行われるものは、各授業後に、教員および SA が全員集まって会議を行っている。

そこで当日の授業からの学びの共有と、次回授業の共通認識を作り上げる。

そこでも SA は積極的な関与を求められる。

また、SA と少し違う役割としてコース・アシスタント（以下 CA と表記）というものがある。複数で行われる授業のマスターとなるスライドと授業骨子をまとめるのが主な仕事である。

CA と SA たちは連携をとり、各授業のプログラムをどのようにファシリテートするか話し合いをしているのである。

このように、SA と CA がリーダーシップを発揮しながら活躍する場を GLP は提供し

ているとも言える。

5. 受講生たちそれぞれのヒーローズジャーニー

神話学者のジョゼフ・キャンベルが世界中の神話や民話の研究から生まれた「ヒーローズジャーニー」という物語の基本構造をご存知の方も多いだろう。映画の『スター・ウォーズ』にその構造が使われていることも有名な話である。私は GLP、特に GL101 や GL111 の受講生にも当てはまると考えている。

典型的なものはこうだ。(　) 内がキャンベルが名付けたヒーローズジャーニーの各ステージである。

中学・高校時代になんらかのリーダーに任命される。部活のキャプテンかもしれない、学級委員長かもしれない。(天命)

そして、失敗したり、成功したり、さまざまな試行錯誤を繰り返す。(旅の始まり)

やり切ったという感慨を持ちながら、またはうまくいかなかったという挫折感を持ちながら、なんとかその期間を終え、どうやったら今よりうまくやれるのだろうかという探究心・好奇心から GLP 受講に踏み切る。(境界線を超える)

授業の中で、教員・SA と出会う。彼らは、それまでの枠にとらわれていた考えに新しい視点を与え、今までは踏み出せなかった一歩を踏み出す勇気を与え、見守り、時には知恵を授ける。(守護者 / メンターとの出会い)

そして、クライアント企業から課せられる課題に取り組む。難解な課題だけでなく、上手くいかないグループワーク、多くの課題に悩まされる。(悪魔 / 敵 / 試練との戦い)

それでも逃げずにそれらに対応していく。そうするうちに、チームメンバーからのフィードバックが徐々に変わってくる。自分も受講前の自分とは違う考えや行動ができていることに気付いてくる。(変容)

そして、クライアントから与えられた課題に関してプレゼンテーションを行い、それぞれの評価を得る。(課題完了)

授業の最後に相互フィードバックをチーム内で行い、それぞれの思いを胸に GLP の入門プログラム GL101/GL111 を終える。(帰還)

そしてまた新たな旅が始まる。意志ある限りヒーローズジャーニーは無限スパイラルである。ある者は GLP で学んだことを使いながら部活やバイト、そして社会に出ていくだろう。またある者はさらなる学びとして GL201 やその他の GLP 科目をとっていくだろう。

そして、この GLP 自体もヒーローズジャーニーというフレームで見れば、ちょうどまた新しい旅を始める段階ではないかと思われる。

リーダーシップ教育を全カリで行う。(天命)

まずは経営学部の BLP をお手本に 4 クラスでスタート。(旅の始まり)

8 つのプログラム、英語版など BLP にないものを設定。(境界線を超える)

さまざまな方々の助けを得ながら運営。（守護者 / メンターとの出会い）
何かしら起こる問題への対応。特に 2020 年度の新型コロナウイルス対応！（悪魔 / 敵 / 試練との戦い）
SA の強化、教員の多様化、クラス数の大幅な増加、オンライン化。（変容）
この 8 年で GLP の立ち上げと安定的運営に関しては、一通り形ができたと考えられる。（課題完了）
そして、ちょうどこの 3 月で私の立教大学での任期が満了する。（帰還）
ここからまた GLP は新たなヒーローズジャーニーを始めるだろう。
そこに意志ある限り。

立教大学の皆さま、長い間どうもありがとうございます。
心より感謝を込めて。
そして、さらなる発展をお祈りしております。

いながき　けんじ